

---

# **愛すべき愛しの我が愛猫たち**

北野 鹿乃子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

愛すべき愛しの我が愛猫たち

### 【Zマーク】

N4270E

### 【作者名】

北野 鹿乃子

### 【あらすじ】

短歌第2弾です。今回は飼い猫をテーマにしてみました。

(前書き)

いやー、序余り序呪らすが酷い酷い(汗)あまり飯にせす楽しんでいただければ幸いです。

足音で

振り返り  
誘う猫に  
ついてゆき  
知らんぷりする猫にも  
ついてゆく

ふりふりと  
逃げてゆく尾を  
追いながら  
ちょっと楽しそうな  
一匹一人

偉そうに  
ふんぞり返つて  
腹を見せ  
さあ、なでなさいと  
女王が鳴く

わかつてしまふ

あなたのこと

でもそれは

猫としていいのかい？

嫌がられ

ますますいじり倒したくなる

そのフキゲンな顔が

たまらない

逃げるから

余計にかまいたい

追いかけたい

あわてて逃げる

後ろ姿 愛しい

すまし顔  
つれない態度を  
とりながら  
ふり返る君は  
誘い上手

シンテレとは

君の存在にこそ

ふさわしい

一番ぴったりな言葉だ

散歩道

上って行くと

いつの間に

君はうしろに  
ついてきていた

甘えたい時にだけみせる上田遣い  
そんな目されたら  
何でもしちゃう

毛繕いしている姿  
まるでおっさん  
メタボな腹に  
邪魔されている

横にある  
ペットボトル

500ミリリットルか

あ、違つた  
2リットルだ

わがままも  
魅力のひとつ  
ただそれを  
全部許すはずはありません

ひつかかれ  
噛みつかれても  
嫌えない

愛情表現のひとつと思うから

このように  
自慢して回りたい  
猫のこと  
親バカならぬ  
飼い主バカ

帰つたときに  
ホツとする  
私を忘れずにして  
迎えてくれるから

こんなにも  
好きなことには  
理由はない  
ただ本当に  
大好きなだけ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4270e/>

---

愛すべき愛しの我が愛猫たち

2010年10月12日07時41分発行